

牛久：学校周辺に見る自然

第38号 ひたち野うしく小

2020年8月2日発行

＜ 生きもの発見！ ～水辺の塔の池＞

こんにちは。ひたち野うしく小2年生との「生きもの発見」、今回は水辺の塔の池で見つけた生きものたちを紹介（しょうかい）します。



大きくて長い、ヤンマのぬげがら（たぶん、ギンヤンマかクロスジギンヤンマ）。

池は、副校長先生が中心（ちゅうしん）になり先生方で整備（せいび）して下さったおかげで、生きものもすみやすく、観察（かんさつ）もしやすくなりました。まず目（め）についたのは、トンボのぬげがら。大きくて長いぬげがらは、ヤンマのなかまです。目の形（かたち）やおなかのトゲなどからギンヤンマかクロスジギンヤンマのようで、両方（りょうほう）いるかもしれません。



アジアイトトンボのめす（左）とおす（右）。よく似たアオモンイトトンボとの見わけは、24年度23号を参考（さんこう）に。

生きているトンボも、見つけましたね。イトトンボのなかま、おすは腹（はら）の先の水色が目だつアジアイトトンボです。よく似たアオモンイトトンボというのがいますが、水色の部分（ぶぶん）の位置（いち）などで見わけることができます（平成24年度第23号に、すこしくわしく書きました）。



シヨウリヨウバッタの褐色型幼虫(左)と緑色型幼虫(右2枚)。羽がのびてないので、腹のしましが見える。

次に見つけたのはシヨウリヨウバッタの幼虫。体の色がちや色の褐色型とみどり色の緑色型がいましたが、どちらも形は同じ。幼虫なので羽はまだ小さく、腹のしまもようがよく見えています。



イナゴの褐色型幼虫(左)と緑色型幼虫(右3枚)。やはり幼虫は羽がのびてないので、腹のしましが見える。

続いてイナゴの幼虫。コバネイナゴと、よく似たハネナガイナゴの両方が市内にいますが、コバネイナゴの方がずっと多く見られます。たぶんこれも、コバネイナゴでしょう。やはり、羽はまだ小さく、腹のしまもようがよく見えています。



最後にヒゲナガヤチバエとアメンボ類の幼虫。ヒゲナガヤチバエは下向きにとまることが多く、枝に分かれた触角や複眼の白いもようなどが特ちょうです。見つけたアメンボはまだ幼虫なので、やはり羽はのびてなくて、別の虫のように見えますね。でも、水面をすいすいと移動するようすは、アメンボそのもの。【理科支援員：宮内】

ヒゲナガヤチバエ(左)とアメンボ類の幼虫(右)